

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年9月2日（火）

2 確認箇所

福島第一原子力発電所免震重要棟緊急時対策所

3 確認項目

緊急時演習の実施状況

4 確認結果の概要

東京電力は、原子力事業者防災業務計画及び特定原子力施設に係る実施計画に基づき、緊急事態に備える総合的な訓練として、緊急時演習を実施している。今回は、福島第一・第二原子力発電所で同時に原子力災害が発生した場合を想定して実施された。

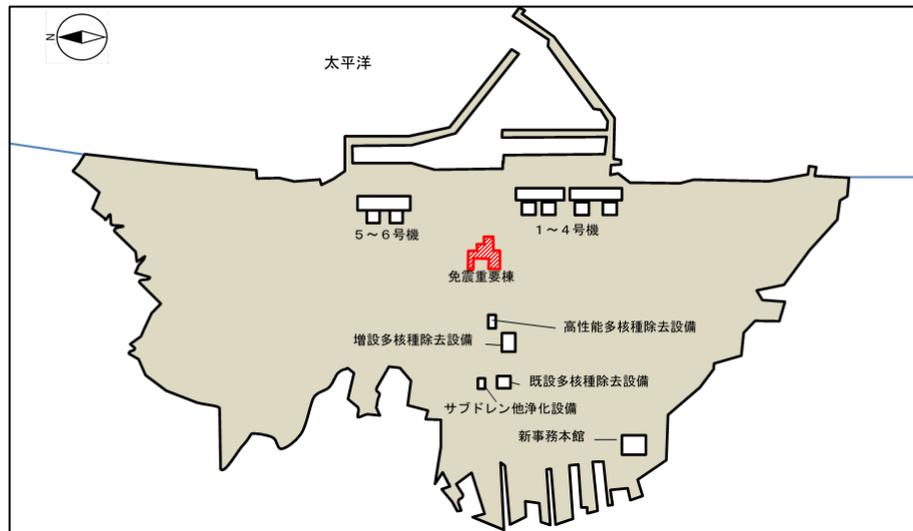
緊急事態における緊急時対策本部の活動状況を、免震重要棟緊急時対策所において確認した。（前回確認：：[令和5年9月1日](#)）

確認した結果、指揮命令、事故進展の共有、対応戦略の共有、要員の安全確保等が適切に行われていた。確認結果の概要は以下のとおりである。

- ・緊急時演習は、以下の様なシナリオで行われた。
 - 13:30に大熊町で震度6強を観測する地震が発生した。
 - 2号機及び5号機の使用済燃料プールにおいてプール水の漏えいが発生した。5号機については、注水等の対応を行ったものの水位低下が継続し、施設敷地緊急事態（SE）及び全面緊急事態（GE）に至った。
 - 汚染水移送配管の破損により汚染水が漏えいし、排水路を経由して港湾内へ流出した。
 - 放射性物質を運搬中の車両が、高速道路のインターチェンジ付近で後方からトラックに追突された。
 - 並行して、竜巻注意情報の発令や汚染傷病者の発生など、複数の事態が同時に進行した。
- ・当初は新事務本館の緊急時対策室において対応していたが、態勢を強化する判断がなされ、原子力防災要員に対し免震重要棟緊急時対策所へ参集することが指示された。14:10頃から要員が順次到着し、各班の指定場所において対応を開始した。参集人数は108名であった。
- ・本部指揮者からの指示はマイクを通じて伝達され、要員全員が集中して聴取していた。
- ・状況の変化に応じて、プール水位やSE・GE到達予想時刻などが緊急時対策室前方の大画面に表示され、共有されていた。さらに、外部電源、非

常用発電機、構内線量、プラントパラメータについても電子ホワイトボードを用いて共有されていた。

- 対応戦略を記載したシートを用いて、今後の対応に関する実施事項、優先順位、対応に要する時間等が共有されていた。
- 現場状況や事態の進展に応じて、要員の保護衣・保護具及び計画被ばく線量が指示されていた。
- F A Xを用いて、県や市町村に対し発電所の状況が発信されていた。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。